

未来へ「はみだす」仲間をつなぐ

EYAN

いいやん

2018 Winter Vol.11

Group company newsletter

強力タッグ・今、現る！  
ロボテイクス新時代を創る



# Logistics 4.0の 実現に向けた起爆剤 ロジテックファンドの 可能性を拓く!!

——まずはお二人の運命の出会い、  
お互いの印象は？

**前田**…遡ること10年前、私が大阪の上場企業代表の方々とぶく料理屋さんで会食をしていた時、そこに辻社長がいた。当時、そのぶく屋さんで辻社長は役員をされていたということで、はじめこの人はぶく屋さんだと思っていたんです。「そんなご縁で、この店が使っていないと…」なんて思っていました。まさかこんな物流企業でハイテクなことをしているとは思いませんでした(笑)。

**辻**…すごい人間関係があったんだと、みなさん思われているようですが、始まりはそんなもんです。前田社長は経営者団体EOで、関西の起業家を支援するアクセラレータープログラムでメンターをしており、私はEOの委員をしていました。ロジテックファンドの構想があった中だったので

相談させてもらったのが、10年ぶりの再会。「ぶく屋さんじゃないんです」と、改めてご挨拶させていただきました。

**前田**…ロジテックファンドの話聞いた時は衝撃を受けました。10年前は燦キャピタルマネージメントも上場したてで、順調に事業を展開していたんですが、その後1000億円分のファンドが頓挫したり、リーマンショックがあったりで倒産寸前にもなった。当時の負債は完済し、去年増資をしたところで、「いよいよこれからだ！」という時にお声掛けいただいたので、本当にタイミングが良かった。これが3〜4年前だったら、そんな余裕はなかったと思います。

タイミングといえば、実は、今年4月には私が入院をしたことで「なぜ起業したのか」と本来の信念・思いに立ち返るきっかけがあったんです。その後、数ある投資先の中で、全力

で応援したいと役員間で合意が取れたのが「PAL」でした。ロジテックファンドも、PAL本体にも投資していく予定です。

**辻**…前田さんは「侍」だと思います。ご自身の人生においても苦境を強いられるシーンがあっても、まったく逃げ



当社最大のチャレンジと一緒にやってほしかった。

株式会社PAL 代表取締役

# 辻 有吾



# 前田 健司

燦キャピタルマネージメント株式会社 代表取締役

ずに戦っておられる。とにかく、金融業界の人っぽくない(笑)。その一点だけでも信用できるし、当社の大きなチャレンジを、ご縁があるところとご一緒したかったという思いも…。同じ、在阪企業であることも理由のひとつですね。

**前田**…うちの役員も「なんでうちのの？ いいの？」と思っていたので、まったくもってありがたい話です(笑)。

——ロジテックファンドは、物流業界と金融業界、それぞれにどういう影響を及ぼしますか？

**辻**…物流業界においては、倉庫業がまずリートファンドとして2000年ごろ金融商品がで上がり、どんどん倉庫の建設ラッシュが起きました。当時PALは創業したばかりの時期で、私は「こんなビジネスがあるんだな」。でも外資系の企業ばかりだな。日本の土地から生まれた賃料が海外に行くのは悲しいな」と思っていました。

一方で、倉庫内の業界では、マテハンなども買うか借りるが一般的でした。人口も潤沢であり、労働者の人件費は安かったので労働集約

型の労働形態が加速したんです。

これからの10年先を見据えた時に、生産性を抜本的に上げていかなければ物流業界はさらなる苦境を強いられる。ロジステクス4.0という言葉も生まれ、なんとなく全体像がぼやっと見えてきていて、足りない機能は何かを探し求めています。

出てきた結論のひとつが「情報」です。われわれは今テクノロジ系の情報を集めるためにネットワークを広めながら、対話の中で出てきた情報を基に、お客様と(物流の生産性向上のために我々が何ができるのか)を協議させていただいています。

もうひとつは、「買うこと」です。ロボットメーカーは、物流資産に投資しない日本の慣習を嘆いていました。せっかく良いものを開発しても買ってもらえないのでは甲斐がない。「ならば買えばいいじゃないか」と、乱暴なほどに単純な発想の中で、かつての

## ワンポイントレクチャー ～ロジテックファンド設立の背景～

今の日本の物流業界の機械化・省人化の流れのなかで、明確な解は生まれてはいません。これは長らく慣習化されたスキームを壊すようなきっかけがまだないとも言えます。PALは、この潮流を変える起爆剤となる

べく、燦キャピタルマネージメント株式会社と共同で、機械・ロボティクスへの投資を実施する「ロジテックファンド」を設立します。その意図は？ 目論見は？ 今回は、この仕掛けの張本人お二人に、その想いを語っていただきます。

リートファンドを思い出しました。倉庫内の設備だって立派な資産だし、同じようなスキームが成り立つはず。それがもし上場銘柄になったり、リートファンドの一部に組み込まれていけば、かつての倉庫建設ラッシュの時のように、倉庫内の景色というものは一変し、社会課題は解決されていく。私たちがだけではできないが、燦キャピタルマネージメントさんのようないろいろな方々の協力を得ることで実現できると確信しました。PALがそんなこと言い出しても「またPALが言うところで！」ぐらいにしかならないので、罪にもならないです！(笑)。

**前田**…ファンド業界のプレイヤーの中では、まず「まだ日本にない、これが第一号である」ということが大きいんです。ファンドのアイデアは、理には通っていますし、金融マンでは絶対思いつかない。実現にあたり、PALが



「全力で応援したい」。それがPALだった。

※「EO」とは、Entrepreneurs' Organizationの略。1987年にアメリカで発足した組織で、年商1億円を超える起業家のみで構成されており、起業家に必要なあらゆる学びを提供する世界的起業家組織である。現在では、48か国150チャプター、11,000名以上のメンバーが加入している。

## 一番でなければ意味はない。

全部資産を持つわけにもいかないの  
で、流動化する発想は正しいと思う  
し、お手伝いに値すると思います。燦  
キャピタルマネージメントは手作り  
商品化できるのが特徴なので、びっ  
りだと思う。

——リリースのタイミングについて  
は？

**辻**…倉庫内全部をPALがファンド  
で受け持つというのは、まだ先の話に  
なりますが「この部分だけでもなん  
とかしたい」というところから、リ  
リーススタートしていきたいですね。

今年から物流業界は揺れ動いてい  
く船出の時。タイミングとしては正解  
だと思っています。ニュースでも報じ  
られているように、今まではベルトコ  
ンベアで流しておけば良かったのが、  
ロボットを使うという発想に転換して

きました。人口減少の中で、お客様  
も物流の過重労働に目を向け、さら  
に省人化できるように取り組み出し  
ています。設備投資をするべきだと  
思ってもなかなかできない方々に、ロ  
ジックファンドは背中を押し、ムー  
ブメントを起こしていける。

まだまだスタートしたばかりの中  
で、早期にコンセプトリリースしたの  
は「まずは活字に残すことが大切で  
ある」という思いがあったからです。  
新聞に掲載をいただいたり、プレ  
スリリースを打ったりして、旗を立て  
ることが大切なんだと思っています  
た。一番でなければこれは意味がな  
い。ひとりが考えたということは、30  
人が同じようなことを考えている人  
がいる。もう後塵を舐めたくない。す  
ぐにやる必要があったのです。

——後続の参入障壁は？

**前田**…PALはロボットやAIな  
どを研究しているところがポイントな  
ので、そこでリードし続けることがで  
きます。もちろん真似をしてチャレン  
ジしてくるプレーヤーは出てくるで  
しょう。逆にそうしないと成長はし  
ていかないでしょうし、PALもアクセ  
ルを踏むには必要不可欠です。ひとつ  
ある私の気がかりは、辻社長同様に  
目利きができる人間が、社内他に  
いるか、というところだけですかね。

**辻**…そこはまだまだ育成途上です。  
しかし、ファンドのあり方にも影響す  
る技術をもつ会社をひとつ見つけたの  
でご紹介します。

ロボット/制御基盤/クラウド/  
通信/組み込み：それぞれのエンジニ  
アが垂直統合的に在籍する会社です。

まで、やはりここからさらにじっくり  
やっていかなければなりません。

**前田**…上場した時に、結果としてビ  
ッグ銘柄になっていれたいと思います  
ね。「日本の省人化に向き合い、世界  
に向けても展開していく」そういう社  
会貢献ができる会社が日本を代表し  
ていかなければならない。ちなみに中  
国市場は日本の10倍で、もちろんこ  
れからも無視することができない存  
在ですが、ロボティクスにおいては今  
後も中国産を使い続けていいものか？  
日本製ロボットを中国にいれる

ことはできないか？と考  
え始めています。PALを  
紹介してほしいという  
お声もいただいでい  
るので、PALへ  
の期待値が高

まじつありますね。

**辻**…社内においても、投資家やお客  
様においても、まずは実績をつくり、  
ロジックファンドの機能と効果を  
知っていただき、「なるほどちゃんと  
できるんだな」と思っていたくださ  
い。それが何より重要ですね。

ワクワクする未来のお話でした！  
本日はありがとうございました。

開のスピードを爆発的にあげること  
ができるのです。

——ロジックファンドが拡大してい  
くにあたってのハードルは？

**前田**…投資家ですね。スキームがで  
きても投資してもらわないと進まな  
い。投資家が理解し、投資意欲を喚  
起することが前提です。「これからは  
物流が大事だ」というのはなんと  
くわかってきていても、やはり知らな  
いということを手を伸ばせないでい  
る。理解していただける投資家を探す作  
業も必要になってきます。

**辻**…私はロボットメーカーの生産ライ  
ンだと思っています。メーカーの供給量に  
は限界があるので、一緒になって育っ  
ていくプロセスが必要になってくる。  
我々が獲得した受注で「どれだけメー

カーの生産ラインを抑えることができ  
るか」がポイントになるので、メーカ  
側と高い信頼関係を築き「物流はP  
ALで」と物流ラインを完全に抑え  
なければなりません。

——ロジックファンドは、これから  
どう成長していきますか？

**辻**…ロボティクスの市場規模としては、  
2025年まで急成長し2035年  
までゆるやかに成長していく。202  
0年にオリンピックファイバーが終わ  
り、投資について振り返った時にファ  
ンドという存在はひとつのキーにな  
り、やっと「PALのロジックファ  
ンド」というものが市民権を得てい  
くでしょう。それまでに十分な実績を  
作ることで、投資家に再評価いた  
だくことが大切です。PALももう18期  
を迎えますが、市場が追いついてくる

まだ日本にはない。だから面白い！

### 前田 健司 (まえだけんじ)

1964年北九州市生まれ  
大学卒業後にオリックス株式会社に入  
社。大阪審査部にて活躍後、1997年  
に燦キャピタルマネージメントを設立。鳥  
取カントリー倶楽部株式会社 代表取締役  
社長を兼任。

### 辻 有吾 (つじゆうご)

1974年東大阪市生まれ  
18歳より起業を目指し、大学卒業後に  
通信会社にて最年少幹部へ昇進。その  
後、株式会社PALを25歳で起業し、現  
在、創業18年目を迎える。  
EO Osaka 三期会長。



## Report from CHINA! RaaS 中国へいく

ロジテックファンドアライアンスは、より多くのロジテック情報を仕入れることが必須。  
今回、その取り組みは国境を超えました!

PALが誇るマルチリンガル、営業開発部の北川さんが現地商談のため、今猛スピードで機械化が促進されている中国へ突貫の5日間(12月4日~8日)、計10社面談の濃密スケジュールを敢行してまいりました!

高度経済成長を遂げ、超大国となった中国。しかし中国もまた、日本と同様に労働人口減少問題を抱えており、その規模は日本の比ではありません。

しかし、なかなかテクノロジー導入が進まない日本とは違い、中国はどんどんロボットメーカーが生まれ、省人化の実

績が積み上げられてきております。中国第2位のEC通販サイトを運営する京東(JingDong)は、2018年4月に完全無人化された物流センターを立ち上げるほどです。

中国のハイテク化はどこでも顕著で、今回面談が行われた上海の街でも、すでに現金決済が消え、老若男女がすべて電子マネーを利用している状況。「去年はこんなじゃなかった!」と北川さんもアンビリーバボー!

世界の最新情報とロボットを日本に持ち込むため、PALのグローバルワイドな取り組みは今後も続いていきます。



世界中から様々な人が訪れる上海空港



空港と上海を結ぶ上海トランスラピッド。最高速度は時速430キロ!



ここが、PALの上海進出の原点(シェアオフィス)。商談はここでしました!

## WELCOME NEWFACE

ようこそPALグループへ!

- ①実は〇〇なんですについての解説。
- ②仕事の抱負。



①戦争2回、火事1回、ハリケーン1回からの生還者です。②Mottoは広く浅く、興味を持ってばどどん情報ハンティングして蓄積! オールラウンドプレーヤーを目指します!! 中南米育ちの極悪癖のせいでソメが甘いのが唯一最大の懸念...

PAL 経営管理本部 大阪本店 福川 祐子

## BREAKING NEWS 番外編

祝! 編集部の早崎が結婚しました!

我がE-YAN編集部のDAIGOこと早崎星蔵が、11月3日に無事結婚式を終え、人生の新しい歩みを奥様と共に♥スタートしました。飾らない笑顔がとってもキュートな奥様と、これからも末長くお幸せに! おめでとうございます!!!



幸せいっぱい指環交換



ニヤニヤする社長たち♪

# PAL GROUP BREAKING NEWS!

このコーナーでは、PALグループの「今」が分かるニュースを連載します。  
新規現場スタートやグループ各社の新しい取り組みなど、新しいチャレンジ満載の内容でお送りします。

## BREAKING NEWS 01

国際ロボット展2017にてソリューションを展示させていただきました!

2017年11月29日~12月2日にかけて開催された「国際ロボット展2017」に、ティレースでの自動動作生成を実現した「MUJINコントローラー」を提供している、株式会社MUJIN様とアライアンスパートナー

を組み、次世代物流倉庫ソリューションを展示させていただきました。

同社のプロダクトを組み込んだ庫内の自動化ソリューションを展開し、スタッフは皆奮闘! その甲斐もあって多くの企業様から

人材・運用制度・スペース問題や課題などのご相談をいただきました。今後もMUJIN/PALのコラボレーションは加速します。お楽しみに!



来年もがんばります!



模擬稼働中のシステムへ、熱い視線が注がれる



当日は多くのお客さまがご来場!

接客に奮闘中のスタッフ

## BREAKING NEWS 02

ロジテックファンドアライアンス

この度、PALはロジテックファンドを活用し、技術導入に取り組む企業と共同開発や実証実験に取り組み、導入促進を後押ししていく「オープンな協力体制」を築いていくことを、プレスリリースさせていただきました。

当社のソリューションを活用いただき、一社でも多くの企業様と共に物流セクターの課題解決を図らせていただきます! PRESS詳細: <https://www.atpress.ne.jp/news/143261>



## BREAKING NEWS 03

海外のリーガルオフィスメンバーがPAL事業の視察に来社!

2017年11月27日、タイの最大法律事務所のDharmniti Law Office Co., Ltd.のメンバー13名の皆さまが、当社のオフィスに来訪されました!

その際、日本の物流セクターのトレンド、そしてPALのソリューションについてセッションをさせていただきました。ヤングエグゼクティブの皆さまは、興味深くコミットしていただき、たくさんの質問が飛び交う場となりました。海外よりご注目いただき、私たちのグローバル化の一歩進む機会となりました。次回は、タイで!



当社オフィスでパチリ☆

# 会社のちょっとイイところ♪

## 第3回

### 現場力



物流センター運営において、物量や生産性の予測は永遠のテーマといっても過言ではありません。どれだけ経験値を積み、過去の数字とにらめっこしても、明日はどれだけの物量が目の前に現れるのか？ 実際には分からないままにその日を迎えることがほとんどです。想定から大きく外れてしまうことも時にはあります。

しかし社会のインフラである私たちは、目の前の”物”から逃げることができません。山のような荷を前にしても、最終的には気合いと根性が大活性化する。「いつもそのスピードでやってくれば……」、そんな管理者の本音を漏れてきそうな驚異的な底力、枠を越えた連携網、突拍子もないアイデアをもってしのぎ切るPALの猛者たち。ときに人は、それを”現場力”と呼ぶ。大きな波を乗り越えて、仲間をさらに結束を堅くする。スマートでありながら、泥臭くもなれる切り替えスイッチがPALの現場には、脈々と受け継がれている。